

ISO/IEC JTC1/SC7 WG21 (IT Asset Management/IT資産管理)
国際会議出席報告書

2026年1月16日

参加者氏名：SAMAC) 島田篤
JISC) 高橋快昇 (記)

1. 開催場所：チューリッヒ/スイス

2. 開催期間：2025.11.18-19

3. 参加国数/出席者数：8カ国/19名、3リエゾン

会場参加者：コンビナー、幹事、独(2)、SAMAC(島田)、日本(高橋)

リモート参加者：インド(1)、カナダ(1)、ITAMForum(1)

4. 審議事項

4.1. 概要

チューリッヒの IBM オフィスでの対面とオンラインの参加者を交えて開催された。会議では、現在の標準の状況や業界の最新情報について議論され、特に前回のバンコク会議で始まった TPM プロジェクトについても詳細な議論が展開された。加え、ITAM フォーラムのアップデート、ホストである IBM (スイス) の紹介もあった。

4.2. 規格開発の状況

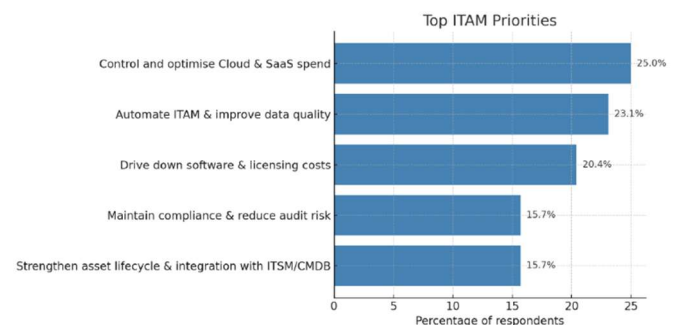
- ・ ISO/IEC 19770-5:ed.3 (用語) —改定中
- ・ ISO/IEC 19770-1:ed.4 (要求事項) —WD 準備中
- ・ ISO/IEC 19770-2, 3, 4, 6 (情報構造規格) —更新が一時停止されている
- ・ ISO/IEC 19770-10:ed.2 (手引き) —WD 準備中
- ・ ISO/IEC 19770-11:ed.2 (審査・認証機関への要求事項) —ISO へ提出中
- ・ ISO/IEC 19770-13:ed.1 (持続可能性) —ISO コメント対応中

WG21 の幹事を務めていた Rose-Ann Merulla さんが来年からは Expert として参加し、Brian Stefanis さんになる。

4.3. ITAM フォーラム Update

マーティン・トンブソン氏から、ITAM フォーラムの活動状況と会員アンケートの結果について、詳しい報告があった。

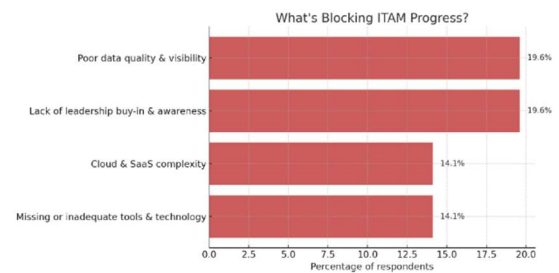
- ・ 2026 年の ITAM における最重要課題：
 - クラウドおよび SaaS の費用を管理・最適化する
 - ITAM のプロセスを自動化し、データ品質を向上させる
 - ソフトウェアのライセンス費用を削減する
 - 法令遵守を徹底し、監査リスクを抑制する



- ITSMとCMDBを活用して資産のライフサイクル統合を強化する

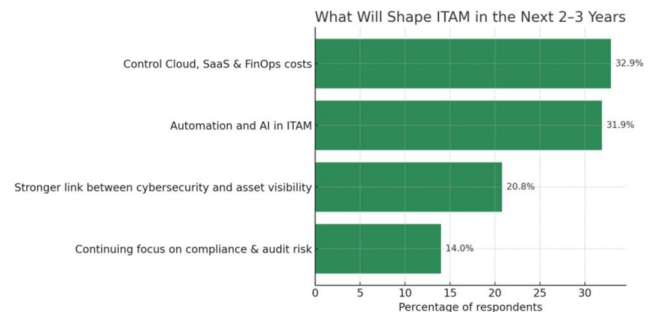
- 主要な阻害要因:

- データの質と可視性の低さ（最も重視される懸念）
- 経営層の理解不足と認識不足
- クラウドとSaaSの複雑さ
- 不足しているか不十分な道具や技術



- 未来を切り拓くトレンド:

- クラウド、SaaS、FinOpsのコスト管理
- ITAMにおける自動化とAIの統合
- 強固なサイバーセキュリティと資産可視化の連携
- コンプライアンスと監査リスクに引き続き注力すること



- 2026年のSIG活動

ITAMフォーラムは、4つの主要な特別関心グループ（SIG）を立ち上げる：

- **AIと自動化**：責任ある使用の原則に基づき、探索・正規化・最適化・資産回収の各プロセスでAIを活用するための指針
- **信頼できるデータ**：データ品質基準の認証と定量化に重点を置く
- **SaaS管理**：単なるユーザー取り戻しを超えた、更新やコスト最適化、ベンチマーキングのためのベストプラクティス
- **AI資産管理**：企業内でAIを資産として適切に管理し、EUのAI法に基づく要件やガバナンス体制に対応する取り組み

- FinOps Foundation 連携

FinOps Foundationとの強い連携が引き続き行われており、内容は以下の通りです：

- 共同イベントおよびベストプラクティスの開発
- FinOpsとITAMの協力に関するホワイトペーパー作成のための作業部会参加
- FinOpsとITAMの交差点に関する毎月のコミュニティミーティング
- フレームワークの更新により、FinOpsの適用範囲がパブリッククラウドだけでなく他の領域にも広がる

@Ron: AIおよびサイバーセキュリティの標準調整のため、MartinをSC27およびSC42のリエゾン担当者となげろ。

@ロザヌ: マーティンのプレゼン資料をミーティングフォルダーにアップロードする。

@ITAMフォーラム: 2026年1月に4つのSIGを発足する。

@WG21: 6月の全体会議の成果物に向けて、ITAMフォーラムのSIGとの協力の機会を検討する。

4.4. ISO/IEC 19770-1ed.4の開発

第4版に関して、投票サイクルに入る前の最終的な2つの重要なフィードバックが話し合われた。

- **スコープ要件**：規格の適用範囲をリストしなければならないことは要求事項としてあるが、適用範囲外もリストすることを要求事項とすべきだとのコメントがあったがあり、どうするかが議論になっていた。今回、スコープ外の文書化については、任意であることを追加することで良いとの結論に達し、承認された。
- **FinOpsフレームワークの整合性**：必要な整合の範囲についての議論が行われた。Ed4のアプローチは、以前の「信頼できるデータ」、「ライフサイクル統合」、「最適化」という枠組みではなく、**FinOpsに合わせ「情報提供」、「最**

適化」、「運用」という構造を採用している。用語や内容を FinOps フレームワークに完全に一致させるべきかどうかについての議論が行われた。結論としては、ITAM 固有の用語を維持し、FinOps の ITAM 関連用語は完全に附属書の参考でカバーすることで合意が得られた。- 1 を拡張するよりも、詳細な FinOps マッピングに- 8 を活用することをも検討することが合意された。

@Ron : スコーピングと FinOps 調整のフィードバックを反映した「- 1」第 4 版修正版ドラフトを回覧する。

4.5. 会場ホスト IBM のプレゼンテーション

4.5.1. IBM クライアント価値加速プログラムのプレゼンテーション

6 か月前に開始された新しい取り組み「Client Value Acceleration Program」が紹介された。このプログラムは、顧客に従来のソフトウェアライセンス監査に代わる選択肢を提供することを目的としている。

- ・ プログラムのメリット：
 - プログラムに参加しているお客様はソフトウェアライセンスの監査を免除される
 - すべての IBM 契約、ライセンス権利、使用状況データを一目で確認できる包括的なダッシュボード
 - ソフトウェアのバージョン、サポート期間、そして Update を把握すること
 - 問題記録の追跡と状態の監視ができる
- ・ 顧客要件：
 - 認定ソフトウェア資産管理パートナーである AnglePoint、Ansenia、Deloitte、または KPMG のいずれかとサービス契約を必ず締結する。
 - プロセッサ単位ライセンスの使用状況の四半期報告
 - その他すべての指標については、年 2 回報告する。
 - データは機密性を確保するために匿名化機能を備え、ドイツで管理されている
- ・ 主な懸念事項：
 - ドイツのホスティングが原因の、スイスの顧客に対するデータ主権の問題
 - 既存システムと比較したデータの品質と正確性
 - 既存のサービス管理ツールとの連携機能

2017 年に ISO/IEC 19770-4 : RUM (プロジェクトリーダ : IBM Turner Brian) が出版され、IBM は製品のすべてで RUN に対応すると言っていたがその延長と思える。

4.5.2. IBM オートメーションポートフォリオ概要

アプリケーションの性能向上とコスト最適化に特化した技術ポートフォリオの紹介。

- ・ **クラウドの戦略の焦点:**
 - クラウドリソースの 3 分の 1 が十分に活用されていないという問題に取り組む
 - 実際の需要に応じてリソースを自動的に増減できる仕組みを提供する
 - Technology Business Management (TBM) を活用して、IT コストをビジネス価値に結びつける
- ・ **コアソリューション :**
 - **Turbonomic** : IBM の全クラウド最適化のための FinOps ソリューション。性能を守りつつインフラコストを最適化する、自動スケーリング機能による継続的なリソース管理ソリューションで、FinOps を採用するユーザに最適なプラットフォーム。
 - **Aptio** : クラウドのコスト管理とビジネス価値の可視化を包括的にサポートする FinOps 向けソリューションで 2023 年に Aptio Inc. 買収により実現。
 - **Kubecost** : Kubernetes に特化した、コンテナのコスト管理と可視化を実現する FinOps ソリューションで

2024 年に Kubecost 社買収により強化。

4.6. Paradigm プロジェクト Kick-Off

ITAM への注目がなかなか集まらない状況で、本来 ITAM はどうあるべきかということが検討されている。その中で ITAM の位置づけを考え直すことが話題になっており、バンコクの総会でプロジェクトを起こすことになった。当初“Phenix Project”と仮名をつけていたが、ITAMFORAM の Project と重なったので“Paradigm Project”にしている。今回、このプロジェクトを牽引する Jan から、たたき台として TPM（Technology portfolio management）の構想が示された。

下図は、ITAM の位置づけを Scope から見たものである。

TBM：IT の価値貢献を包括的に把握するための、一連の対策と手法。価値創造プロセスに関わるすべての IT リソースのコストとメリットに関する透明性を実現。

ITAM：調達、使用、保守、廃止を含む IT 資産のライフサイクル全体を積極的かつ

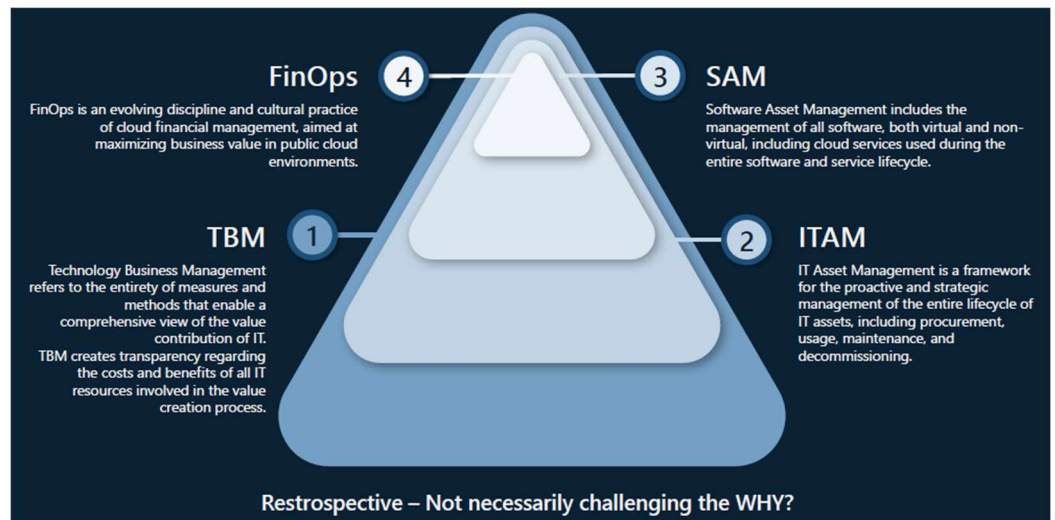
戦略的に管理するためのフレームワーク。

SAM：仮想ソフトウェアと非仮想ソフトウェアの両方を含むすべてのソフトウェアの管理。

FinOps：パブリッククラウド環境におけるビジネス価値の最大化を目的とした、クラウド財務管理の進化する分野であり、文化的実践（特定の集団内で共有され、繰り返し行われる行動）。

[テクノロジーポートフォリオ管理（TPM）に関するコンセプトの議論]

- ・ **現在の ITAM の制限：**
 - ビジネス価値よりも、主にライセンスやコンプライアンスに重点を置いている
 - 技術選択の理由を問わず、資産単位での視点を見ること
 - オペレーショナル・テクノロジー（OT）と新たな規制要件を除外した範囲に限定している
 - 戦略的に技術を計画するのではなく、反応的に対応するアプローチ
- ・ **TPM のビジョン：**
 - **包括的なガバナンス**：IT と OT の両方を含むポートフォリオ全体の視点
 - **フィット評価**：技術が事業戦略および要件にどの程度適合しているかを評価すること
 - **価値の実現**：導入、保守、撤退コストを含む総所有コスト
 - **リスク管理**：規制遵守や事業継続計画を含む、包括的なリスク評価
 - **ライフサイクル管理**：技術の取得、最適化、廃止に関する戦略的計画
- ・ **提案された構造：**
 - TPM は包括的な管理システムの規格として位置づけられている
 - 現在の ITAM 標準（ISO/IEC 19770-1）が技術仕様として位置付け直された
 - 企業アーキテクチャ、財務管理、戦略企画との統合
 - 運用の細部ではなく、CIO レベルのガバナンスに注力する



- ・ **決定事項と今後の対応**

- **最優先事項**：来年中に ISO/IEC 19770-1 の第 4 版を完成させて公開する
- **並行開発**：テクノロジーポートフォリオマネジメントの概念を探るための勉強会を立ち上げる
- **スケジュール**：アトランタ会議での議論対象と標準案の発表予定

@Ron：ISO/IEC 19770-1 第 4 版の草案を完成させ、出版手続きを開始する。

@Jan：ワーキンググループにプレゼン資料と TPM 標準文書の草案を共有する。

@Ron：技術ポートフォリオ管理に関する ISO の既存の取り組みを調査する。

@Jan：FinOps Foundation やその他の関係者とともに、TPM 勉強会の設立をリードする。

@Ron：IT 資産管理の範囲を超えて拡大する場合の ISO 指令の影響について調査する。

@Ron：Paradigm Project の勉強会規約を作成する。

@全員：TPM のコンセプト資料を確認し、勉強会の結成に向けてフィードバックを行う。

4.7. ISO/IEC 19770-5 の状況報告

2025 年 1 月に DIS 投票が承認されて通常であれば IS として出版される筈であったが、NB から ISO の TC/SC からのコメント処理に時間を要し進展していない。

- ・ **文書の再編成**：ISO の要件に基づき、「概要と用語」文書から純粋な用語のみの文書に変更した
 - ISO 編集者からの指摘に対応するため、概要セクションを削除した
 - 用語に関する条項のみを維持した
- ・ **ISO エディターコメントへの対応**：未使用の用語に関するコメントを主に、大部分対応した。
 - ほとんどのコメントは「文書内で使われていない用語」というものだが、用語のみの規格には当てはまらない。
 - 出典の参照と参照定義に関してのコメントに対応
- ・ **NB コメント**：受け取ったコメントは、ほとんどが ISO 編集者の要件によって代替されている。
- ・ 次のステップ：
 - コメント対応文書を完成させる
 - 関係機関からの未処理のコメントに対応する
 - 構成について ISO 編集者に相談する
 - 修正した草案を SC7 に提出する

@Ramesh：- 5 のコメント処理文書を最終化し、ISO からのコメントに対応する。

@Ramesh：最終提出前に- 5 の方向性について ISO 編集者に確認する。

4.8. ISO/IEC 19770-13 の進捗状況更新

- ・ **編集レビュー**：
 - 投票入力を受信されていないため、ほぼ最終段階であることを示している。
 - 参照文書の更新（ISO 55000 シリーズの刷新）
 - 文言の細かな修正と書式の調整
- ・ **未処理項目**：
 - 相互参照および専有名称参照の検討
 - ISO ガイドラインに基づくブランドや商標の例の削除
- ・ **スケジュール**：週末までに完了予定、その後に公開作業を行う（2026/1/16 時点で DTS 投票中）

@Jan：- 13 の編集レビューを完了し、週末までに最終版を提出する。

4.9. FinOps 財団との連携及び ITAM トレンドについて

- **業界の動向：**
 - FinOps Foundation のトップは ITAM と FinOps の融合に大きく注目している。
 - ディーン・オリバーが率いる作業グループに J.R. ストーマンも関与している
 - 融合の利点を強調したベストプラクティス文書の作成
- **市場浸透：**
 - 数万人の認定実践者
 - フォーチュン 50 のうち 49 社が積極的に取り組んでいる
 - Gartner による「FinOps」用語の正式な採用
- **主要な統合領域：**
 - クラウドマーケットプレースの活用シナリオ
 - SaaS 管理（クラウド関連に焦点を当てた）
 - AI のコスト管理とトークンによる課金システム
 - 成果報酬型請求モデル
- **成果物：** 現在作成中のホワイトペーパーと、ガートナー IOCS カンファレンスにおける共同発表

4.10. ISO/IEC 19770-10 の文書構造に関する議論

- **現在の課題：**
 - レビューや投票のプロセスが長い
 - - 10 は大きすぎる
 - 急速に変化する技術に対応するため、より柔軟なアプローチが求められている
- **考えられる解決策：**
 - - 10 をより小さく、目的別に特化した文書に分ける
 - 管理システム、データ管理、ツールに関する指針のための個別ドキュメント
 - ISO の枠を超えたより迅速な開発のために、Linux Foundation の手法を活用する
 - 無料版と ISO 認証版のデュアルチャネルアプローチを検討する

@Ron: 今後の月次電話会議に向けて、Stefan と文書構造について話し合いを予定する。

5. 次回会議

- Monthly Call : 毎月の最終週水曜日（12 月は休会）
- Plenary Meeting : June 2026, Atlanta, USA (TBC) US が辞退したので現在調整中
- Interim Meeting : Nov 2026, Tokyo, Japan (TBC) Plenary Meeting 開催場所調整待ち

以上